

InterSecVM/MWc V1.0 for Linux (Amazon EC2 用)

セットアップ手順説明書

はじめに

このたびは、『InterSecVM/MWc V1.0 for Linux』（以降、本製品と表記します）をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、Amazon Web Services(以降、AWSと表記します)上に本製品のシステムを構築する管理者、システムエンジニア、保守員を対象にしています。ここでご紹介する構成のサンプルや設定例は、あくまで参考情報としてご提供するものであり、動作保証をするものではありません。



本書で記載している AWS 関連項目（サービスや機能範囲など）の説明は、執筆時の情報に基づくものです。
AWS 関連項目は、AWS サービス提供者により修正されている場合もありますので、本書と併せて AWS サービス提供者が公開する情報も確認ください。

本書の表記規則

本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角カッコ	コマンド名の前後 画面に表示される語（ダイアログ ボックス、メニューなど）の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログボックス
\$ コマンド	Linux ユーザが、一般ユーザでログインしていることを示すプロンプト	\$ sudo umount
# コマンド	Linux ユーザが、root でログインしていることを示すプロンプト	# cd /var/log
モノスペース フォント (courier)	パス名、コマンドライン、システムからの出力（メッセージ、プロンプトなど）、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	/var/log
モノスペース フォント 太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドラインから入力する値を示します。	以下を入力します。 admin
モノスペース フォント 斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	rpm -i mw_Module-< バージョン番号>-< リリース番号 >.i386.rpm

法的情報

- Copyright © NEC Corporation 2015
- NEC、NECロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は Linus Torvalds の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。
- Amazon Web Services、“Powered by Amazon Web Services” ロゴ、AWS、Amazon EC2、EC2、Amazon Elastic Compute Cloud、Amazon Virtual Private Cloud、Amazon VPCは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。
- そのほかの会社名ならびに商標名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTMや®は明記していません。
- 本書の内容は、日本電気株式会社が開示している情報の全てが掲載されていない場合、または他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合があります。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。本書の制作に際し、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、日本電気株式会社はこれらの情報の内容が正確であるかどうか、有用なものであるかどうか、確実なものであるかどうか等につきましては保証致しません。また、当社は皆様がこれらの情報を使用されたこと、もしくはご使用になれなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。本書のいかなる部分も、日本電気株式会社の書面による許可なく、いかなる形式または電子的、機械的、記録、その他のいかなる方法によってもコピー再現、または翻訳することはできません。

目次

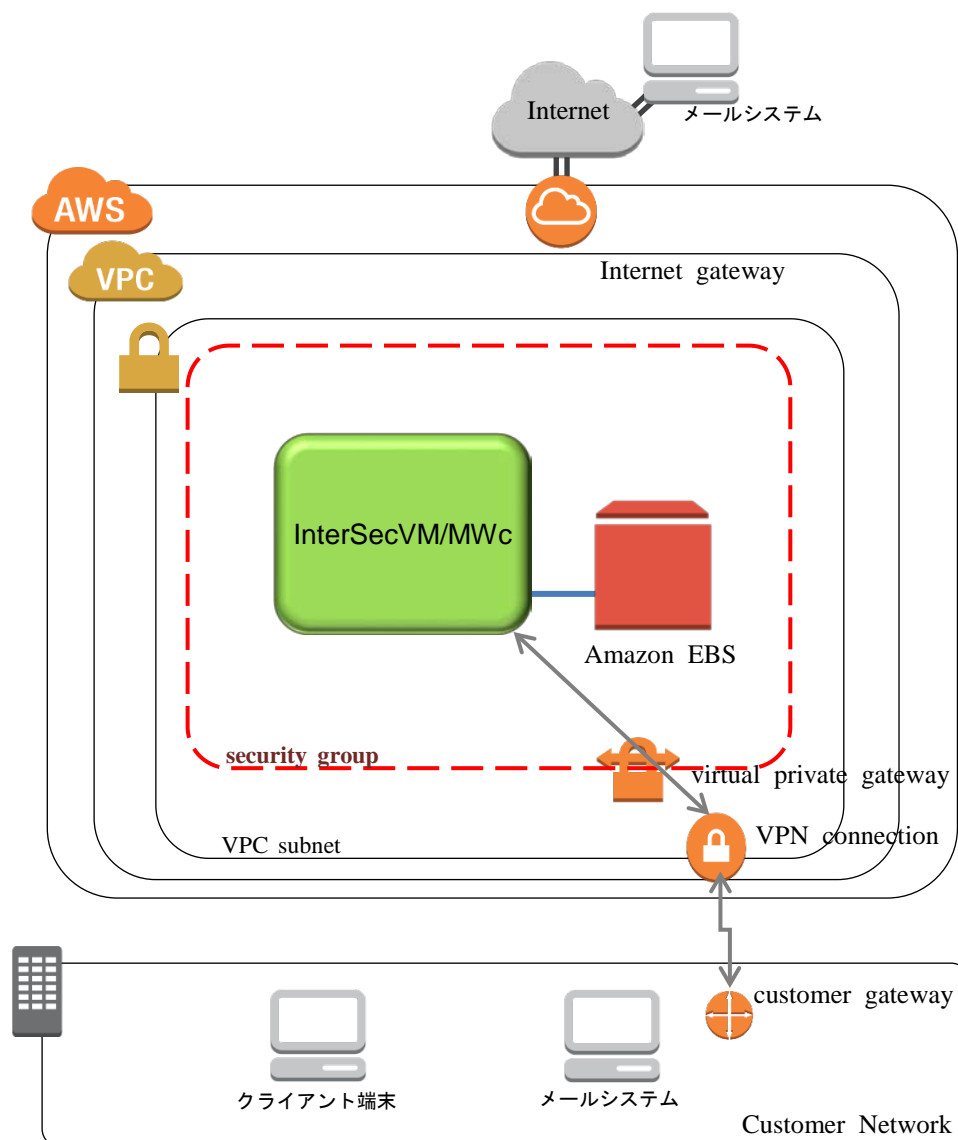
1章 概要	1
1.1. 事前準備	2
2章 動作要件	3
2.1. AWSサービス	3
2.2. Amazon VPCシナリオ	3
2.3. EC2インスタンス	4
2.3.1. リージョン (Region)	4
2.3.2. アベイラビリティゾーン (Availability Zone)	4
2.3.3. 仮想ネットワーク (EC2-VPC)	4
2.3.4. セキュリティグループ (Security Group)	4
2.3.5. サブネット	4
3章 セットアップ手順	5
3.1. EC2インスタンスの作成	5
3.1.1. Amazonマシンイメージ (AMI) の選択	5
3.1.2. インスタンスタイプの選択	5
3.1.3. インスタンスの詳細の設定	5
3.1.4. ストレージの追加	6
3.1.5. セキュリティグループの設定	6
3.1.6. キーペアの作成	6
3.2. InterSecVM/MWcのインストール	7
3.2.1. SSH接続	7
3.2.2. InterSecVM/MWcのインストール	8
3.3. 製品ライセンスの登録	10
3.3.1. Management Consoleへの接続	11
3.3.2. 製品ライセンスの登録	12
3.4. システム管理者情報の変更	13
3.4.1. パスワードの変更	14
3.4.2. メールの転送設定	14
4章 注意事項	15

1章 概要

本製品は、メール中継サーバを構築するためのアプライアンス化ソフトウェアです。本製品を Amazon Web Service で提供される Amazon マシンイメージ（AMI）にセットアップすることにより、メール中継機能を持つメールサーバシステムを構築することができます。

本製品をセットアップした AMI は、本製品が提供するメール中継サーバ専用として利用してください。他のソフトウェア等がインストールされた場合、本製品の機能が正常に動作しなくなる可能性があります。

InterSecVM/MWc利用イメージ



1.1. 事前準備

本製品のセットアップ作業にあたっては、以下を準備してください。

- 本製品
 - ✓ インストールパッケージ格納ファイル
 - ✓ 『管理者用パスワード』
 - ✓ 『製品ライセンス』
- AWS環境の利用環境
 - ✓ Amazon Web Serviceのご利用の準備（AWSアカウントの作成など）
 - ✓ Amazon EC2 E-メール上限緩和申請が完了していること



AWSのご利用は、予めAWSアカウントを作成しておく必要があります。
AWSアカウントの作成については、AWSサービス提供者側の情報を確認ください。

2章 動作要件

本製品の利用に必要な環境、要件について説明します。

2.1. AWS サービス

本製品の構築には、以下の AWSサービスを利用します。

- ・ Amazon Virtual Private Cloud (VPC)
- ・ Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)
- ・ Amazon Elastic Block Store (EBS)

2.2. Amazon VPC シナリオ

本製品は、以下のVPC構成で利用できます。

- ・ パブリックサブネット
- ・ パブリックサブネットおよびプライベートサブネット
- ・ パブリックサブネットおよびプライベートサブネット+プライベートVPN
- ・ プライベートサブネット+プライベートVPN

2.3. EC2 インスタンス

InterSecVM/MWcを構築する際のインスタンスの要件は以下の通りです。

表. インスタンス要件

項目	要件
AMI	Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6 (HVM) (RHEL6.5.x86_64)
Instance Type	m3.xlarge ブートデバイスサイズは40GiB以上
Network	EC2-VPCの利用を推奨します。
Storage	インスタンスストレージの利用は推奨しません。
Security Group	以下のポートへの接続を許可します。 <ul style="list-style-type: none">- SSH (TCP/22 番ポート)- SMTP (TCP/25 番ポート)- TCP/50453 番ポート (※) (※) InterSecVM/MWcのWeb管理画面へのHTTPS接続に使用します。

2.3.1. リージョン (Region)

リージョンは、EC2インスタンスを作成する場所のうち地理的な位置を意味します。本製品のご利用にあたり、指定するリージョンは問いません。

2.3.2. アベイラビリティーゾーン (Availability Zone)

アベイラビリティーゾーンは、リージョンの中でも物理的に離れた設置場所を意味します。本製品のご利用にあたり、いずれのアベイラビリティーゾーンも指定可能です。

2.3.3. 仮想ネットワーク (EC2-VPC)

EC2-VPCは、論理的に分離したネットワークを構成し、静的なプライベートIPアドレスを使用できる仮想ネットワークです。

AWSで利用できるネットワーク（プラットフォーム）は、EC2-VPCとEC2-Classicがありますが、本製品のご利用にあたっては、EC2-VPCの指定を推奨いたします。

2.3.4. セキュリティグループ (Security Group)

セキュリティグループは、EC2インスタンスのトラフィックを制御する仮想ファイアウォールです。

作成したEC2インスタンスの運用を可能にするために必要なポートへの接続を許可しておく必要があります。

2.3.5. サブネット

サブネットは、作成されたEC2-VPC内で使用するIPアドレスの範囲です。一つのEC2-VPC内で複数のサブネットを作成することもできます。本製品を利用するEC2インスタンスが所属するサブネットは、お客様の構築環境に合わせて作成してください。

3章 セットアップ手順

本製品をご利用いただくためのセットアップ手順を説明いたします。

本製品のセットアップには、以下4つの手順を順に実施していただく必要があります。

- ・「EC2インスタンスの作成」
- ・「InterSecVM/MWcのインストール」
- ・「製品ライセンスの登録」
- ・「システム管理者情報の変更」

3.1. EC2 インスタンスの作成

InterSecVM/MWcを利用いただくためのインスタンスの作成手順について説明します。

3.1.1. Amazon マシンイメージ（AMI）の選択

AWS Marketplaceから以下のAMIを選択してください。

- ・ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6 (HVM) (RHEL6.5.x86_64)



本製品の動作を保証しているAMIのOS（バージョン）は上記のみです。
他のバージョンやOSを選択された場合は、動作を保証できません。

3.1.2. インスタンスタイプの選択

本製品の動作を推奨しているインスタタイプは以下の通りです。

- ・ m3.xlarge

3.1.3. インスタンスの詳細の設定

本製品を利用する上で設定を推奨しているインスタンスの詳細設定は以下の通りです。

- ・ ネットワークにはEC2-VPCを指定してください。



本製品をインストールしたAMIは、本製品が提供する機能専用として利用してください。他のソフトウェア等がインストールされた場合、メモリなどのリソースが枯渇しシステムが異常終了する可能性があります。

3.1.4. ストレージの追加

本製品は、ルートデバイスのみでご利用できます。
ルートデバイスのサイズは40GiB以上を指定してください。

追加のボリュームは、本製品のバックアップ機能におけるバックアップデータの格納先として利用することができます。バックアップデータの格納先は、標準ではルートデバイス内の/var/backupディレクトリに設定されています。追加したボリュームを/var/backupディレクトリにマウントすることが可能です。



EC2 インスタンスを停止した場合に保存データが維持されない「インスタンスストア」でのご利用は推奨しません。



追加ボリュームでのバックアップ格納先設定方法については、本製品のユーザーズガイドを参照してください。

3.1.5. セキュリティグループの設定

本製品のセットアップに必要な最低限の接続許可対象ポートは以下の通りです。

- ・ SSH (TCP/22 番ポート)
 - ・ TCP/50453 番ポート (※)
- (※) InterSecVM/MWcのWeb管理画面へ接続(HTTPS接続)する際に使用します。

本製品の運用（メール中継）に必要な許可対象ポートは以下の通りです。

- ・ SMTP (TCP/25 番ポート)

3.1.6. キーペアの作成

EC2インスタンスへのSSH接続のためにキーペアを作成する必要があります。

3.2. InterSecVM/MWc のインストール

本製品をご利用いただくために、作成したEC2インスタンスに InterSec/MWcをインストールする手順を説明します。

本製品のご購入によって事前に準備したInterSec/MWcのファイルを、インストール対象のEC2インスタンスにscpコマンドなどで格納しておいてください。

WindowsクライアントからEC2インスタンスへの格納：

Windowsクライアントにscpコマンドをサポートするソフトウェアがインストールされている必要があります。ソフトウェアにより使用方法が異なりますので、そのマニュアル等を参照してください。

LinuxクライアントからEC2インスタンスへのscpコマンドの実行例：

以下のコマンド実行によりec2-userアカウントのホームディレクトリにintersecvm mwc_v1.0-aws.imgファイルを格納することができます。

```
scp -i key.pem intersecvmmwc_v1.0-aws.img ec2-user@インスタンス:
```

- ・ **key.pem**は、予め作成したキーペアを保存したファイル名を入力してください。
- ・ **インスタンス**は、EC2インスタンスのFQDNまたはIPアドレスを入力してください。FQDNを指定する場合は、クライアント側で名前解決できることが前提です。
- ・ **インスタンス**の後ろはコロン（:）を入力してください。
コロンの入力がない場合、scpコマンドは、クライアント上のカレントディレクトリに“ec2-user@[インスタンス]”という名前でコピーします。

3.2.1. SSH 接続

EC2インスタンスへのSSH接続は、予め作成したキーペアを使用したRSA/DSA鍵による接続を行ってください。

作成したEC2インスタンスのログインアカウント名は「ec2-user」です。

ログイン後、ホームディレクトリに「intersecvmmwc_v1.0-aws.img」ファイルが格納されていることを確認してください。



EC2 インスタンスにログインした後、本書セットアップ手順が完了するまでは、システムのアップデート（‘yum update’ コマンドの実行など）は行わないでください。

本製品のインストールや以後の動作において、システムにインストールされているパッケージバージョンを指定している場合があります。その為、アップデートされた場合、本製品が正常に動作しなくなる可能性があります。

3.2.2. InterSecVM/MWc のインストール

SSHログインしたコマンド画面から次頁手順に従ってのコマンドを実行し本製品をインストールしてください。



InterSecVM/MWc のインストール実施前に、以下のことを確認してください。

- ・ yum コマンドによるパッケージのインストールを行いますので、インターネットへ HTTPS 接続を可能にしてください。
- ・ 本製品をインストールする AMI の名前解決がリゾルバーサーバで可能になるようにしてください。
- ・ 本製品以外のソフトウェアのインストールやシステムの設定変更は行わないでください。



yum コマンド実行時に HTTPS 接続が行えない場合、1 分程度でのタイムアウトの後、以下のようなメッセージが表示されインストールは行われません。ご利用環境の設定を確認し、再度インストールを実施してください。

Could not contact any CDS load balancers: <接続先FQDN…>

<接続先 FQDN…>はご利用の環境によって変わります。

(1) インストール用イメージファイルをマウントしてください。

```
$ sudo mkdir /mnt/intersec
```

```
$ sudo mount -r -o loop intersecvmmwc_v1.0-aws.img /mnt/intersec
```

※ コマンド行頭の '\$' はプロンプトです。プロンプト文字を除いて実行してください（以下同様です）。

(2) インストールスクリプトを実行してください。

```
$ cd /mnt/intersec/
```

```
$ sudo sh install
```

インストールが開始されると以下のメッセージが表示されます。

```
"The InterSecVM/MWc V1.0 for AWS" installer was start.
```

インストールが終了すると以下のメッセージが表示されます。

```
"The InterSecVM/MWc V1.0 for AWS" installer was ended.
```

(3) インストール用イメージファイルをアンマウントしてください。

```
$ cd
```

```
$ sudo umount /mnt/intersec
```

インストールが完了したらインストール用イメージファイル不要になりますので、以下のコマンドでファイルを削除してください。

```
$ rm intersecvmmwc_v1.0-aws.img
```

以上で本製品のインストールは終了です。

本製品の利用を可能にするためには、『InterSecVM/MWc Management Console』に接続して、本製品のライセンスを登録する必要があります。続けて次項「3.3. 製品ライセンスの登録」を実施してください。

3.3. 製品ライセンスの登録

本製品の利用を可能にするために『InterSecVM/MWc Management Console』（以降、Management Consoleと表記します）に接続して、本製品のライセンスを登録してください。Management ConsoleはWeb画面です。WindowsクライアントPC（以降、クライアントPCと表記します）のWebブラウザから接続してください。



Management Console 接続は、以下の Web ブラウザで確認しています。

- ・ Internet Explorer 8
- ・ Internet Explorer 9
- ・ Internet Explorer 10
- ・ Internet Explorer 11

3.3.1. Management Console への接続

- (1) クライアント PC の Web ブラウザから以下の URL に接続してください。

`https://インスタンス:50453/`

- ・ “インスタンス”は、EC2インスタンスのFQDNまたはIPアドレスを入力してください。FQDNを指定する場合は、クライアント側で名前解決できることが前提です。



本製品に対し、Elastic IP Address(EIP)がアタッチされていない場合は、ポート NAT 変換等を行い、本製品の Management Console(ポート 50453)に接続できるように設定を行ってください。
ポート NAT 変換を行う場合、接続ポートはTCP/50453 番を指定してください。

- (2) Management Console のログイン画面が表示されます。

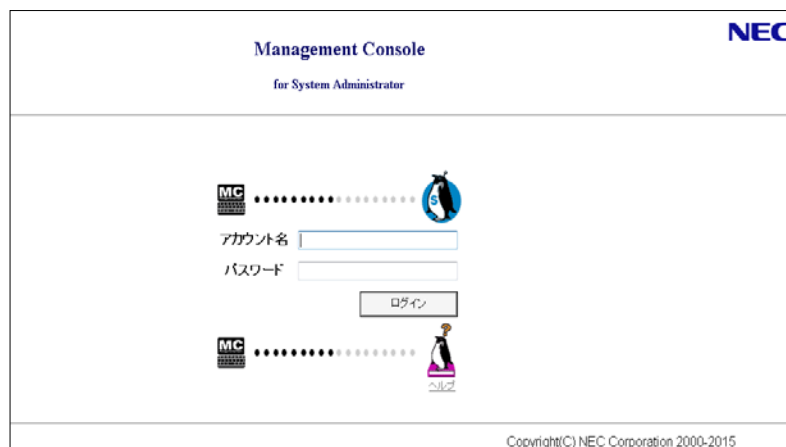


図. Management Console ログイン画面

アカウント名にシステム管理者名、パスワードに以下の値を入力して、[ログイン]をクリックしてください。

アカウント名 : admin
パスワード : 初期パスワード(※)



- ・ アカウント名、パスワードは、大文字・小文字を区別します。
- ・ 「初期パスワード」は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しています。

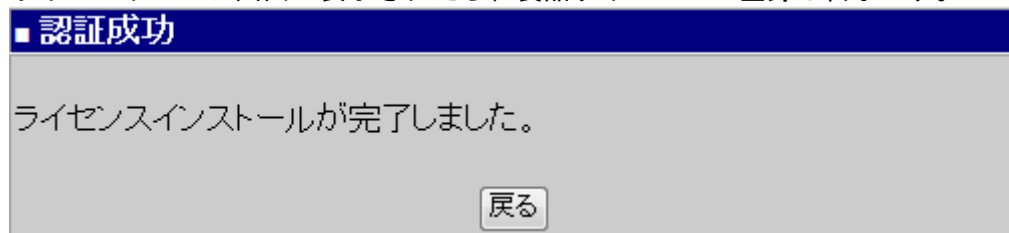
3.3.2. 製品ライセンスの登録

- (1) Management Console にログインすると「製品ライセンス」画面が表示されます。
「製品ライセンス」を入力して、[認証送信]をクリックしてください。



- ・「製品ライセンス」は、『製品ライセンス』に記載しています。

以下のメッセージ画面が表示されたら、製品ライセンスの登録は終了です。



[戻る]をクリックすると、「InterSecVM/MWc Management Console」のトップ画面が表示されます。

本製品の利用にあたっては、「システム管理者パスワードの変更」、「システム管理者宛メールの転送設定」を行っておくことを強く推奨いたします。
次頁の「3.4. システム管理者情報の変更」を実施してください。

3.4. システム管理者情報の変更

本製品のセットアップ直後ではシステム管理者パスワードは初期パスワードが設定されています。本製品への不正なログインを防止するためにも、システム管理者パスワードを以下の手順で変更してください。

また、root宛などのメールはすべてシステム管理者宛に転送設定されています。システム管理者宛のメールを参照する場合は、他のメールスプールサーバのメールアドレスに転送してください。

- (1) Management Console にログインしてください。
前項「3.3.2.」から続いて操作されている場合は、すでにログインされた状態になっています。
- (2) メニュー[システム管理者]をクリックしてください。
「システム管理者設定」画面が表示されます。

システム管理者

サービス

メールサーバ

システム

システム管理者

ログアウト

システム管理者設定

システム管理者設定

ヘルプ

パスワード設定

システム管理者名 admin

パスワード:

パスワード再入力:

設定

メール設定

☐ メールを転送する

メール転送先

設定

図. システム管理者設定画面

3.4.1. パスワードの変更

- (1) 「■パスワード設定」欄の「パスワード」「パスワード再入力」に新しいパスワードを入力して、[設定]をクリックしてください。
メールの転送設定と合わせて[設定]をクリックすることはできません。

項目名	説明
システム管理者名	システム管理者アカウント名を設定してください。既定値は「admin」です。
パスワード／ パスワード再入力	システム管理者アカウントのパスワードを設定してください。 既定は初期パスワードです。セキュリティ向上のため、パスワードの変更は必ず行ってください。

3.4.2. メール転送設定

- (1) 「■メール設定」欄の「メールを転送する」のチェックボックスをチェックし、「メール転送先」に転送先メールアドレスを入力して、[設定]をクリックしてください。
パスワード設定と合わせて[設定]をクリックすることはできません。

項目名	説明
メールを転送する	システム管理者宛のメールを他のメールアドレスに転送する場合、チェックしてください。
メール転送先	転送先メールアドレスを設定してください。 転送先は複数設定することができます。複数設定する場合は、一つ設定するごとに新しい入力欄が表示されますので、一つずつ設定してください。



メール転送先に指定するメールアドレスは、到達可能なアドレスであることに注意してください。

以上で本製品の運用準備は終了です。

ご利用の機能に関する設定を行ってください。各種サービスやシステムの設定方法については『InterSecVM/MWc V1.0 for Linux (Amazon EC2 用) ユーザーズガイド』をご参照ください。

4章 注意事項

本製品のご利用にあたっては、以下の点にご注意ください。

- 本製品をインストールしたAMIに他の製品をインストールして使用することは保証しません。
- 本製品が利用できるEC2インスタンスタイプは、m3.xlargeのみです。他のタイプでの動作検証は行っておりません。
- Amazon EC2 API Toolsはインストールしていません。必要に応じて、インストールしてください。詳細は、AWSの利用環境を確認ください。
- CLUSTERPRO Xによる冗長化構成は構築できません。